

令和5年度第1回
佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和5年7月21日(金) 13:30～15:30

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 諮問

4. 議題

- (1) 令和5年度総合計画審議会の年間スケジュールについて
- (2) 第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）の素案について

5. 閉会

○出席委員 15名

欠席委員 4名

【資料】

- ・資料1 令和5年度総合計画審議会の年間スケジュール
- ・資料2 第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）の素案

会議要旨

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 諮問
4. 議題
 - (1) 令和5年度総合計画審議会の年間スケジュールについて
 - (2) 第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）の素案について

～事務局より内容説明～

(主なご意見)

【村山委員】

施策の最重要課題は、人口減少対策である。その中で、社会減あるいは自然減に対する対策にどう取り組んでいくのかについて、部局横断的に行うことにより、全体的な人口減少対策として、社会減、自然減を食いとめるといふ、K P Iをつくる必要がある。例えば、前期基本計画時の人口減少率と、後期基本計画時の人口減少率を比べるような考え方があるとよいと考える。

また、基地の対策について、防衛予算が上がってきており、このような防衛費の増額に向けて、佐世保市に、防衛関係の経済をしっかりと波及させるといふことが必要である。例えば、防衛産業の用水誘致や、幹線修理など民間の活動に重点的などころである。基地の政策の中でそのような分野を進めようとしたときに、必ずしも基地の担当課だけではなく、部局横断的な取り組みが必要である。

【横山委員】

水道について、佐世保市の特徴として、全国水準と比べて水道料金が高いというだけでなく、すべて市営ダムであるといふことが挙げられる。また、その耐用年数がすでに3倍を超え、老朽化が進んでおり、そのような高い水を皆さんが使用している状況である。さらに、2年に1度は節水のために、できるだけ水を使わないようにと市民の皆さんにお願いしている。経営する側から見たら、商品を使わないでくださいといふことになり、なかなか利益も上がらない。従って、今後さらに水道料金を上げざるを得ない状況になっている。

その解決策が石木ダムであると考えている。市長と県知事がお会いして、対応策を練っ

ていると思うが、石木ダムについては、すでに最高裁の判決が出て、必要性や緊急性は最高裁も認定している。

さらに、企業立地について、担当者の方に聞いたが、佐世保に企業立地をお願いするために大阪に行っても、55の業種のうち、51業種はもうお願いできない、つまり水を使わない業種しか呼ぶことができない状況である。従って素案にある相浦工業団地の早期立地実現を目指しますという言葉は永遠に続いていくだろうと考える。

さらに I R についても、9000人の雇用が生まれると言われているが、水についての問題は非常に難しい状況である。

これは佐世保市だけで解決できる問題ではなく、県の方と連携をしなければいけないことである。

【飯田副会長】

佐世保が抱える問題はたくさんあると思うが、その中で取り組むべき問題として人口減少を食い止めることが挙げられる。佐世保が誇れるものは、農業の部分にあると考える。産業を育成し、後継者が佐世保に居残っていただければ、移住促進をしなくとも、多くの問題が解決すると考えるため、漁業従事者あるいは農業従事者の皆さんの意見の確認をお願いしたい。

【西岡会長】

形式的な面になるが、別紙1のKPIの説明が「施策の目標」とあるが、総合計画の中では、「重要業績評価指数」となっており、疑問に感じる。

また、KPIの目標値について、単位が統一されていない部分、数値が入っていない部分がある。

【西岡会長】

村山委員からは、人口減少対策と、防衛予算の増額をいかに地元で経済効果として取り組んでいくかという視点についてご意見をいただいた。

横山委員からは、石木ダムについて、ご見識を披露していただき、事務局より、県と連携して、市民に対して理解を広めていくという回答があった。

飯田委員からは、地域の一番の課題として人口減少をどう食い止めるのかという問題について、佐世保の誇るべき産業の特徴である、農業や漁業という一次産業の後継者をどのように確保するかという点についてご質問があり、事務局より、農協漁協等へのヒアリングを行い、それを反映した形での計画であるという説明があった。

私のご提起については、今後の課題ということで取り組んでいただければと思う。他にご意見がないようであれば、これで終了する。